

「継続は力なり」～クラブ独自性の継承を！～



国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB.

2013 年(平成 25 年)9 月 11 日(水)
第 1145 回 例会報告

事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

●本日の司会

(西野 勝介副 SAA)



●開会点鐘

(平畑 秀東会長)

●ロータリーソング「我らの生業」斉唱

●本日のお客様



土居 通明様 (東京世田谷南 RC)
鈴木 明彦様 (東京世田谷南 RC)



植田 耕司様

●会務報告

(平畑 秀東会長)



明日 9 月 12 日 (木) 多摩中グループ協議会が開催されますので、私と伊藤幹事で出席してまいります。昭島市より 2013 青少年フェスティバルの協賛についてお知らせが来ております。これについては、理事会で協議して決定したいと思います。

●幹事報告

(伊藤 満雄幹事)

9 月 5 日 (木) 地区ポリオ・プラス委員会へ小島会員が出席をしました。

●「卓話」太田道灌 18 代目が語る「江戸の成り立ち」

認定 NPO 法人・江戸城再建を目指す会 会長 太田 資暁様

★講師紹介 (山中 幸子会員)



江戸城を築城なさったのは太田道灌です。この方のご子孫であります太田資暁様が本日の先生です。太田様は 1943 年東京生まれ、早稲田大学商学部を卒業後、東京海上に入社されましてその後東京海上あんしん生命の社長をなさいました。退任後は、認定 NPO 法人江戸城再建を目指す会の会長として活躍されています。

★認定 NPO 法人・江戸城再建を目指す会

会長 太田 資暁様



2020 年東京オリンピックが決まりました。本日はこの機会に江戸の成り立ちを知っていただくと思って参りました。

東京は今や世界有数の大都市ですが、僅か 550 年前は葦と荻の生い茂る荒地であり、太田道灌資長(すけなが)が 1457 年に江戸城を築いた頃は僅かに江戸氏の館があった程度と伝えられています。当時は戦国時代の始まりの頃で関東でも下剋上の風が吹き始めていましたが、その原因は中央政治の混乱でした。その頃の関東は関東公方(くぼう)という政権が 2 分され古河(こが)公方と鎌倉公方に分かれ、利根川・荒川を挟んで壮烈な領土争いをしていました。鎌倉公方の補佐役である管領(かんれい)上杉家は山内(やまのうち)系が代々受け継いでいましたが、分家である扇谷(おおぎ)上杉家は相模の守護でありました。道灌はその家老であったので地位的にはさして高くはないのに、その道灌が関東の大半を押さえてしまったのですから政情が不安定になるのは必定でした。今で言えば公方は関東の大統領、管領は首相、守護は県知事と言ったところでしょうか。

道灌は父の道真(どうしん)とともに川越城、岩槻城、江戸城を築いたと言われていますが、それらの場所は両勢力が争う前線基地であり、江戸城は隅田川を挟んで千葉

氏に対する「対の城」でした。道灌は京都の政権の命により城を築いたわけですが、江戸城を造る時に場所の選定で苦労しました。上野、湯島、江戸、品川、川崎と土地を物色して歩きましたが、種々検討した結果現在の皇居の地を城としたわけです。もし他の場所を選定していたらその後の東京も大きく変わっていたでしょう。当時江戸は日比谷の入り江が奥深く入り込んでおり、後方は神田の山、右手は平川が流れ、左手は溜池と言われるように沼地で、城を造るには格好の場所でした。結果的にこの城は戦禍によって落城したことの無い誠に運の強い城となりました。

当時の戦は殆どが同族間の争いです。山内上杉家家老の長尾家の内紛で、長尾景春が謀反を起こし、関東各地の豪族が一齐に蜂起しますが、道灌はそれを一つずつつぶして行きます。実に30度戦って一度も負けたことのない戦の名手でした。道灌の戦で名高いのは江古田、沼袋の合戦です。石神井城に本拠を置く豊島氏と道灌は江古田原で激突し（現在の中野哲学堂の裏辺り。）ここで勝った道灌は石神井城に追い詰め勝利します。その他関東には道灌が戦った場所が多々あり、その言い伝えが今でも数多く残っています。

当時の関東では、道灌の名前は、「負け知らずの文武両道の名将」として上がる一方でした。京都の高僧・文人も応仁の乱を逃れて、多数道灌の元に集まりましたが、それを見て上司の扇谷上杉定正（さだまさ）は面白いはずもありません。管領の上杉顕定（あきさだ）から「道灌がお前の首を狙っているぞ」と讒言され、定正は見境もなく、自分の館に道灌を招いて、風呂に入っているところを殺そうとします。その時道灌は「当方（上杉家）滅亡」と言って死にますが、その言葉の通り1年も経たないうちに定正と顕定は戦端を開き、関東は泥沼の戦場と化していくのです。（長享の乱）この時になって定正は「しまった」と思ったに違いないでしょう。道灌は幼少の頃より建長寺で体制派の学問、朱子学を学び「仁、義、忠、孝、礼、信」を徹底的に叩き込まれているので、上司への反逆などおおよそ考えていなかったと思われます。この点、同年齢で道灌の死後、自分の腕だけで関東を押さえた北条早雲とは対照的です。

上司のために本分を尽くすことを第一義と考えたにも拘らず思慮の浅い上司に謀殺された道灌は、後の世の判官鼻眞の江戸市民に熱烈に愛され、「太田道灌雄飛録」という本が大いに読まれました。

私は2020年にNHKの大河ドラマで道灌と早雲が放映されることを夢見ております。司馬遼太郎の「箱根の坂」という小説に書かれておりますが、この二人は静岡で一度会ったことがあります。対照的な人生を送った二人を描けばきっと面白いドラマになると思われます。

★謝辞（平畑 秀東会長）



本日は貴重なお話をありがとうございました。先生のこれからの益々のご活躍を祈念いたします。

●ニコニコBOX発表

（志賀 義任親睦委員）



◎平畑会長
太田資暁先生、卓話宜しく願いいたします。

・伊藤幹事
太田様、本日の卓話ありがとうございます

・鈴木会員
太田様本日の卓話ありがとうございます。

・山中幸子会員
本日の太田先生の卓話よろしく申し上げます。2020年東京オリンピック決定、おめでとう！1964年東京招致のプレゼンをして成功した私の伯父、平沢和重も天国で喜んでいると思います。

●出席報告

（指田 裕士出席委員）



会員数	50名	出席義務会員	48名
本日の出席	29名（メイクによる出席者数を除く）		

●次週例会予定

（山中 幸子プログラム委員）

9月18日（水）

「25周年実行委員の発表」

下田 安治 25周年実行委員長

2012-2013 ゴルフ部総括報告

内藤 征一 ゴルフ部長

●閉会点鐘

（平畑 秀東会長）